

カストロ・マリム (Castro Marim)

について



写真: C. M. Castro Marim

カストロ・マリム (Castro Marim)

カストロ・マリムからは、一方に塩沼、グアディアナ川、海が、もう一方には地平線まで続く山々が見えます。オープンスペースが好きな人、野鳥や植物の観察に興味がある人、ウォーキングやサイクリング、自然の中で行うアクティビティを楽しむ人たちが挑戦するのは、この風景です。

高台にあるカストロ・マリム城は、サン・セバスティアン要塞とサント・アントニオ・ラベリンと戦略的に並んでいます。それらの間の空間は、カラフルなプラットバンド、ルーフテラス、「レース」の煙突で飾られた街の白い家々で埋め尽くされています。そのシンプルさは、アルガルヴェ特有の建築様式を反映しており、白を基調とし、黄土色と青のストライプがそれを引き締めています。この色は、幾何学的な形や花のモチーフで家のプラットバンドを飾るのにも使用されます。

中世の城は、1242年にパイオ・ペレス・コレイアが指揮し、カストロ・マリムがポルトガルの一部となったキリスト教征服の名残として建っています。13世紀後半、ディニス王（1261～1325年）の時代に、この城はテンプル騎士団に代わって創設されたキリスト教団の本部となり、騎士団の本部はトマルに移されました。国境を防衛する軍事的重要性は、17世紀にサン・セバスティアン要塞とサント・アントニオ・レヴェリンが建設されたことで強化されました。



市内にある、殉教者の聖母に捧げられた教区教会は、レコンキスタ時代にこの地に定住したキリスト教徒である「殉教者」を称える古い庵の跡地に18世紀に建てられました。

サント・アントニオ・レヴェリンがある丘には、カストロ・マリム領土解説センターもあり、この地域の歴史について学ぶことができます。このセンターからは、カストロ・マリムおよびヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオ塩沼自然保護区とグアディアナ川河口を見渡す息を呑むような絶景が楽しみ、様々なウォーキングコースの出発点にもなっています。



塩の蒸発池は、この地域の豊かさのひとつである塩沼の面積の約30%を占めており、今でも職人による塩採取が行われています。ぜひテイastingやガイド付きツアーに参加してください。村にあるカサ・ド・サルでは、地域経済と地域の歴史における塩の重要性について学ぶことができます。

塩沼はまた、動物相や植物相を発見したり、ここで休息したり、餌をとったり、巣を作ったりする水鳥を観察したりするのに最適な場所でもあります。



ウォーキングやサイクリングツアーは、地元で最も人気のあるアクティビティのひとつです。カストロ・マリムを通るグアディアナ大周遊ルートは、ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオからスタートすることも、ヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオで完走することもできます。川を探検するには、地元のボートを利用することもできます。その多くには船上でのランチが含まれており、郷土料理を満喫する絶好のチャンスです。

海沿いのこの地では、伝統的な料理の多くは当然魚料理です。おすすめは、カラス貝ご飯、アジの皮むき、魚のシチュー、マグロのステーキ・オニオンソースです。イチジクの詰め物、アーモンドと蜂蜜のケーキが最も美味しいスイーツです。

アルガルヴェは、最も近いビーチ、夏の海水浴やヴィラ・レアル・デ・サント・アントニオの砂浜やフォルモサ・ラグーン自然公園での長い散歩など、一年中楽しめる場所です。



8月15日には殉教者の聖母に捧げられたお祭りが開催され、誰もが楽しめる歴史的なイベントである中世の日々のおかげで、この月はエキサイティングな終わりを迎えます。お祭りの一環として、カストロ・マリム城は再び王と女王、騎士、愚か者、道化師、貴族、貴婦人を迎えます。馬や徒歩で戦うトーナメント、大道芸、時代音楽に合わせて楽しむ宴会、商品や工芸品の見本市など、遠い昔の魔法が再現されます。